



## シリーズ！ 我が国からの議長・副議長に聞く その3

ことう よしのり  
後藤 良則 ITU-T SG13副議長 (WTSA-16選出 (再任))

専門領域：将来の通信ネットワークのアーキテクチャの検討、標準化	● 2001年 ITU-T SG9に参画、映像伝送技術標準に携わる
略歴：	● 2006年 ITU-T FG-IPTV WG5 共同議長就任
1994年 東北大学大学院工学研究科応用物理学専攻 修了	● 2007年 ITU-T SG16 Q21 ラポータ就任
1994年 日本電信電話(株) 入社	● 2009年 ITU-T SG16 WP2 共同議長就任
	● 2013年 ITU-T SG13 副議長就任(現在に至る)



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

**後藤** 引き続きSG13副議長に再任され、標準化の場で活躍できることをうれしく思います。ネットワーク標準のプロモーターとしてSG13の活動に取り組みたいと思います。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

**後藤** 標準化に関わるようになり今年で18年になります。ITUは2001年から15年間活動してきました。映像伝送、ホームNW、将来網と様々な分野を渡り歩いています。

—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

**後藤** SG13の最重要課題はIMT-2020の非無線部分の標準化です。日本からはNWソフト化という新しいコンセプトを提唱しています。これをグローバルなコンセプトとして推進することがSG13の最重要テーマです。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？



**後藤** SG13は副議長数が10名と多いのですが、議長を補佐し、ラポータを支援する中間管理職として存在感を発揮したいと思います。同時に活動の質的側面でリードしている日本の代表として活動をリードしたいと思います。

—— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

**後藤** フォーラムやオープンソースなどとの関係においてITUの地位は決して安泰ではありません。多様な参加者をまとめて独特なコアコピタンスを確立したいと思います。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

**後藤** 結局は個人レベルでの信頼関係が大きいと思います。利害関係はあるものの、個人としての信頼があれば各プレイヤーからの協力を取り付けられると思います。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

**後藤** 副議長になって技術的知見だけでなく幅広い教養が人間関係を豊かにして、異文化のコミュニケーションを円滑にすると考えるようになりました。時間を見つけて読書に励んでいます。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

**後藤** 国際標準化は技術者にとってグローバルな視野で活動できる貴重な機会です。若い技術者がこの分野に関心を持っていたければ幸いです。

### 【読者のための豆知識】

SG13 (第13研究委員会) の活動内容：  
IMT-2020、クラウドコンピューティングと信頼性の高いNWインフラを中心とした将来網

あらき のりゆき  
**荒木 則幸** ITU-T SG15副議長 (WTSA-16選出 (再任))

専門領域：光ケーブル網の保守運用技術、光デバイスの研究開発、標準化

略歴：  
 1995年 上智大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 博士前期課程 修了  
 1995年 日本電信電話（株）入社

● 1995年 アクセス網研究所 光ファイバ試験技術・光デバイス研究  
 ● 2006年 ITU-T SG6参加、Q6/6（光ケーブル網保守運用）ラポータ  
 ● 2007年 IEC TC86（ファイバオプティクス）参加  
 ● 2012年 ITU-T SG15副議長就任（現在に至る）



—— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

**荒木** 今回は再任ということもあり、前回ほど緊張していませんでしたが、無事任命されて安心しました。二期目であり、SG15マネジメントの中での役割も大きくなることから、気を引き締めて取り組まなければと感じています。

—— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

**荒木** 専門領域は光ファイバ・ケーブルで、2006年（当時はSG6：屋外設備）からラポータとして会合に参加しています。また、IEC TC86（ファイバオプティクス）にも参加し、両標準機関の連携を図っています。

—— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

**荒木** フォーカスグループで議論されているIMT-2020の関連技術として、光アクセスシステムのMBH/MFHやネットワークのソフト化、低遅延化（同期）等の標準化について活発に議論されると予想します。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

**荒木** 現在は、主にWP2（光技術及び基盤設備）のマネジメントを担当していますが、他のWP（アクセス、トランスポートNW）においても日本技術の標準化を推進できるよう、マネジメントチーム内での情報共有や連携を心掛けたしたいと思います。

—— 副議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうかお考えですか？

**荒木** SG会合では技術に関する議論だけでなく、勧告作成プロセスや新規提案等についてマネジメントとしての意

見を求められることが多々あります。こうした時に客観的な立場から適切に対処できるよう、ITU-TのルールブックであるAシリーズ勧告を熟読しておく必要があると思います。

—— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

**荒木** SG15はITU-Tにおける最も活発で実産業への影響力の大きいSGの1つと考えられます。物理層NWはIoTのような派手さはありませんが、IMT-2020を含め新たなサービスやアプリケーションを支える基盤設備ですので、引き続き日本政府及び企業の皆様のご支援、積極的な参加をいただければと思います。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

**荒木** 標準化に限らず、様々な仕事を進める上で、やはり人と人とのつながりが重要と思います。各国の参加者とも、まずは個人としての信頼関係を築くことが第一と考えます。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

**荒木** ITU-Tにおける国際標準化には、単に相互接続のためのインタフェース等の規格を作成することだけでなく、災害対応や途上国へのICT普及等の社会への貢献という役割もあり、これらの側面も意識して、日本として国際貢献できればと考えています。今後ともご支援の程よろしくお願いたします。

**【読者のための豆知識】**

SG15（第15研究委員会）の活動内容：  
 光伝送網及びアクセス網基盤



かわすみ やすひこ  
川角 靖彦

ITU-D SG1 副議長 (WTDC-14 選出 (新任))

専門領域：電気通信技術、国際協力

略 歴：

1961年 慶應義塾大学工学部電気工学科  
卒業

1961年 国際電信電話 (株) 入社

1984年 メイトランド委員会専門委員会議

1988年 メルボルンCCITT総会

1989年 ニース全権委員会以後、ミネアポリス、マラケシュ、グアダハラ、釜山全権委員会議に参加

1998年 マルタ世界電気通信開発会議以後、イスタンブール、ドーハ、ハイデラバード、ドバイ世界電気通信開発会議その他世界無線主管庁会議、CCITT/CCIR会合、世界テレコム等に参加

1999年 ルーラル通信のための新技術ラポータ

2002-2014年 ルーラル通信のラポータ

2015年 ITU-D SG1副議長就任 (現在に至る)



—— WTDC-14から早3年弱が経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

**川角** ITU-D会議に対する我が国セクターメンバーの出席が少ないのが気にかかっていたのですが、ITUジャーナルに会合報告を毎回掲載していただき、少しずつではありますが、理解が深まってきていると感じています。最近、途上国市場の重要性について取り上げられるようになってきたことも影響していると思われます。

—— ご専門領域とご経歴、ITU (SG) との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

**川角** これまでKDD (現KDDI) において国際関係の仕事に関わってきました。技術面では通信の現場で伝送、交換、ネットワーク運用、衛星通信技術、海底ケーブル技術、途上国支援など、また、ITU会議でCCITT勧告の作成、無線規則を審議する会議に関わってきました。

—— 今秋WTDC-17に向けて今研究会期のまとめの時期となっています。今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

**川角** 途上国がブロードバンド技術、新サービスの恩恵を享受し、その効果による経済開発を通じ、国の発展に役立てようと熱心に会議に参加するようになり、世界の通信業界の動きにも大いに関心を持っています。このような途上国の要望に応える次研究期の課題の作成を目指したいと思います。途上国のニーズにかなった研究作業計画をWTDC-17で作ることが重要だと思います。

—— 副議長としての難しさや壁 (障壁)、そうしたことへの対処方法はどうか考えですか？

**川角** 途上国と一概に一括りにできないところが難しいと思います。最新の技術知識、情報を有し、母国ではデシジョンメーカーをできる立場の人がいる一方、ICTの発展か

ら取り残された国の人達もいます。幅広く、忍耐強く接することが必要です。

—— 我が国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

**川角** 日本の技術をひけらかすことなく、丁寧に途上国のニーズに耳を傾け、応えることが大切です。途上国側の我が国に対する信頼は高まっています。むしろ我が国の方から積極的に近づいていくことが大事だと思います。ITU協会のNew Breeze誌の情報はとても喜ばれています。

—— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

**川角** ITUの会議では単に言葉だけでなく相手国の歴史や文化を勉強しなければと痛感しています。世界の情勢にも明るくなければだめですね。ニュースをよく見て、音楽もよく聞きます。技術だけでは話が続きません。

—— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

**川角** ITUの会議に参加する途上国、先進国の代表とハグを伴っての挨拶ができる関係を築ければと思います。過去の経験から、標準化や国際交渉がうまくいった例では相手と相性が合っていると成功します。相性の合う人を探すのが大事です。そういう状況に持っていくことも大事です。相性が合うことを英語ではChemistryが合うと言うそうです。化学反応ですか。ビジネスでも同じですね。

**【読者のための豆知識】**

SG1 (第1研究委員会) の活動内容：  
電気通信/ICT開発のための環境整備